

日本大学病院

# 急性期病院から後方支援病院へ ～転院調整の大幅な効率化を実現～



2014年10月1日に開設された日本大学病院

## 導入の背景と課題

**転院調整に時間と労力が費やされている**

急性期病院である日本大学病院は、月280.9名<sup>※1</sup>の入院患者を治療し、日々退院患者を送り出している。

退院患者のうち、自宅療養が困難な患者については、適切な医療機関（回復期リハビリテーション病院など後方支援病院）

などに転院させることが一般的である。転院に際しては、医療相談室のMSW<sup>※2</sup>等が調整を支援している。

これまでの転院調整は電話とFAXで行っていたため、両院の地域医療連携室の状況に配慮し、情報共有は診察などで多忙な医師の診察の合間や終了後に行う必要があった。そのため、情報共有と合意形成に時間と労力が費やされていた。また、FAXの利用では誤送信の危険性もあり、転院調整に頭を悩ませていた。

## サービス導入

**転院調整の負担が大幅に軽減**

日本大学病院は転院調整の負担軽減を目的に、セキュアなクラウド型多職種連携サービスである『ひかりワゴンチームSP』を2018年7月に試験導入。2019年1月より本格運用を開始した。

『ひかりワゴンチームSP』の導入により両院の医師、MSW、地域医療相談員は相手の都合や時間にとらわれることなく、



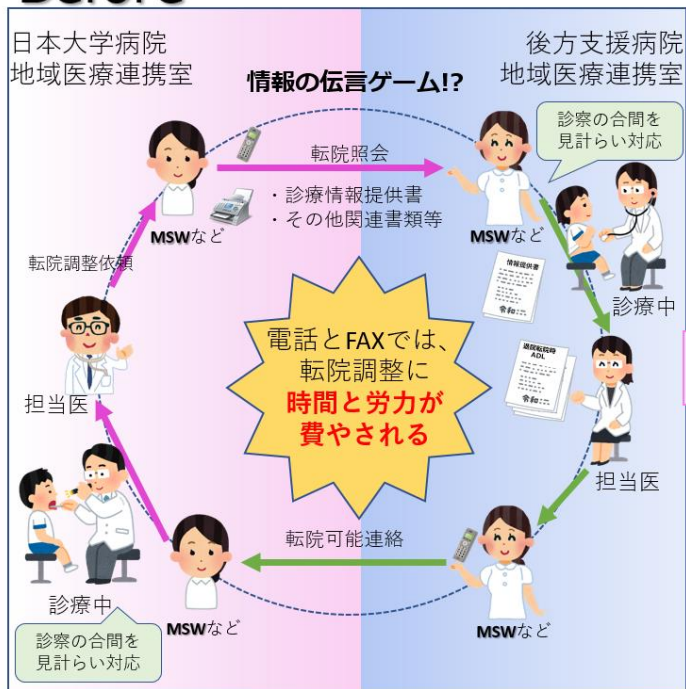
### 日本大学病院

NIHON UNIVERSITY HOSPITAL

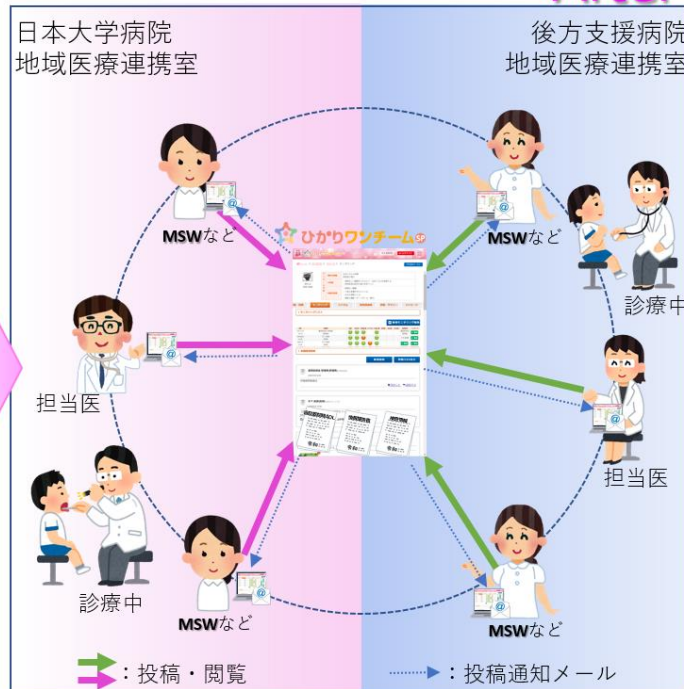
設立：2014年10月1日  
 病院長：天野 康雄  
 許可病床数：320床  
 診療科数：22科  
 URL：<https://www.nihon-u.ac.jp/hospital/>

患者の状況などをメッセージとして投稿出来るようになった。また、メッセージが投稿されると同時に関係者は投稿通知メールを受け取り、タイムリーにメッセージを閲覧し、回答することが出来るため、転院調整に業務を中断されることもない。メッセージには診療情報提供書や関係資料の添付が可能であるため、FAXを利用する必要がなくなり誤送信の心配もなくなった。そのため転院調整が効率化されることで人的負担が軽減されるとともに、退院患者のQOL<sup>※3</sup>の向上にも繋がっている。

## Before



## After



## 選ばれた理由

### 安全・安心・簡単なサービス

転院調整では、患者の氏名や症状などの機微な情報を扱うため、安全・安心で、導入が容易なサービスとして、次の特長を持つ『ひかりワンチーム SP』が選ばれた。

- ① ASP サービスのため申し込み後すぐに利用できる
- ② 簡単に退院患者の転院調整に必要なチームを作ることができる
- ③ 簡単にメッセージの投稿、ファイルの添付ができる
- ④ メッセージ投稿があれば通知メールで知ることができる
- ⑤ 3省ガイドライン<sup>※4</sup>準拠、VPN 対応で安心安全なセキュリティ

## 導入の更なる効果

### 様々なメリットが生まれる

導入後、効率的な転院調整が出来るようになるとともに、様々なメリットが生まれた。

- ① 後方支援病院では、日本大学病院から転院患者概要の事前共有があることで、ベッド調整など病床稼働率の向上につなげることができる
- ② 後方支援病院は、転院してくる患者の病状経過や転帰の結果を知りたい場合の問合せに対するハードルが低くなった
- ③ 転院記録が残せることにより、転院患者が後方支援病院から日本大学病院に戻って来た際も、過去の経過が確認できトレーサビリティ向上に有効である。

※1：1日平均（令和元年度実績）

※2：医療ソーシャルワーカー（MSW:Medical Social Worker）

※3：クオリティ オブ ライフ（QOL: Quality of Life）

※4：厚生労働省、経済産業省、総務省が定めた、医療情報を扱う医療機関および外部委託された情報処理事業者が遵守すべきルール

※5：国家公務員共済組合連合会 九段坂病院

※6：日常生活動作（Activities of Daily Living）

## 導入後の声（日本大学病院）

### とても助かっています。

日本大学病院医事課の池田氏は、「試験導入時は何処まで効果が出るか不安であったが、スタッフの評判もよく、使っていくと利便性を感じるようになった。試験運用で問題になっていた点も本格運用までに修正され、今ではなくてはならないサービスとなっている。おかげで関係者の大幅な負担軽減になっている。このサービスは導入しやすいので、今後は後方支援病院を増やし、より効率的な業務を展開していきたい。業務のスピードアップによる時間の有効活用ができてとても助かっています。」と語る。



「医療業界においても、ICT化が推奨される昨今、特別な設備や装置を必要としないので負担なく始められるのがいいですね。使ってみれば効率化でき非常に便利です。とても助かっています。」という医事課の池田氏

## 導入後の声（九段坂病院<sup>※5</sup>）

### とても便利です。今後も長く使いたい

試験導入からご参加いただいている回復期リハビリテーション病棟の九段坂病院小林医師は、「日本大学病院からの転院

調整において、診療情報に目を通して確認事項を伝達するなどの連絡にどうしても時間を要していた。日本大学病院のご提案により『ひかりワンチーム SP』を導入したが、転院患者の照会通知をメールで受け、空き時間にメッセージを確認できるためとても便利になった。また、転院後も患者の状態変化について日本大学病院の医師と診療情報や画像などを供覧できることも助かっている。急性期治療からリハビリテーション治療へスムーズに移行できるようになり、患者のADL<sup>※6</sup>やQOL向上に役立っていると思う。「今後も長くサービスを使い続けていきたい



「一度使ったら、とても便利で重宝しています。今後も長くサービスを使い続けていきたいです。」という九段坂病院の小林医師

と思う。」との弁。

## 日本大学病院の今後の期待

日本大学病院の理念には「病院は病者のためにある」とある。『ひかりワンチーム SP』を利用することで、後方支援病院との連携が円滑かつ効率的に行えるようになり、患者のQOLが更に向上することを期待している。

## ■お問い合わせ

NTTテクノクロス株式会社

エンタープライズ事業部

第四ビジネスユニット

〒220-0012

横浜市西区みなとみらい 4-4-5 横浜アイマークプレイス

TEL:045-212-7424 FAX: 045-681-3182

e-mail: healthcare.info-ml@ntt-tx.co.jp

URL:https://www.ntt-tx.co.jp/